

## 教室(診療科)紹介 (88)

### 統合的な精神科医療をめざして

#### 精神神経医学講座 (大森・大橋)

教授：水野雅文

准教授：中村道子

根本隆洋

講師(医局長)：辻野尚久

昭和24(1949)年6月24日東邦医科大学付属病院に神経科外来が開設された。昭和28(1953)年には新井尚賢先生が教授に就任され、正式に東邦大学医学部精神神経科学教室が創設された。その後、森 温理先生、柴田洋子先生、鈴木二郎先生、菅原道哉先生の歴代教授のもと、発展を遂げ、平成18(2006)年4月に現在の木野雅文が主任教授として着任した。新井教授以来、精神病質研究、犯罪精神医学研究、地域精神医学研究、社会復帰研究、精神生理などの臨床に根差した社会精神医学研究が教室の中心的研究テーマとして引き継がれている。

大橋病院精神科(現・心の診療科)スタッフは昭和39(1964)年の開設以来精神神経医学講座内でローテーションしている。

現在の講座は、教授1名、准教授2名、講師1名、助教

7名、シニアレジデント8名、レジデント6名、大学院生3名に加え、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士など多数のメンバーで構成されている。また関連施設として多数の精神科病院において同窓生、教室員が勤務し、学生教育、卒後教育などに関わっている。

#### 診療内容・特色

精神科医療では、他の医学分野に比べてより統合的で包括的な視点とそれに基づくアプローチを求められている。一般に、精神科診療では、診察室で患者の話を傾聴し、適切な薬物を処方するが、それだけでは患者の悩みや苦痛を解決することはできない。精神障害では、幻覚や妄想などの精神症状だけでなく、認知機能障害、社会機能障害を抱え、さまざまな生きにくさを体験している。これらの諸問題に対して、bio-psycho-socialな視点に立った、さらにethicalな配慮も含めた、統合的な治療が必須であり、その発展が求められている。現在、当講座ではこれらの治療の基礎となる研究にも取り組んでいる。

東邦大学医療センター大森病院精神神経科は「こころの病の早期治療」をテーマに、大学病院の特性を活かしつつ地域で求められる精神科臨床サービスを提供している。またさまざまな専門外来(イルボスコ、ユースクリニック、てんかん、産業精神保健、児童思春期、メモリー、コモン)を開設し、現代社会の多様なニーズに応えるべく努力している。また今秋からは近赤外線分光法(near infra-red spectroscopy: NIRS)が導入され、うつ病診断をはじめとする先進医療に取り組んでいく。

#### 研究

水野雅文教授が代表研究者を務める厚生労働省科学研究費水野班は「精神疾患患者に対する早期介入とその普及啓



精神神経医学講座 教室員

発に関する研究』として8大学が分担班として参加しており、わが国における精神病の予防研究を先導している。この他文部科学省科学研究費によるプロジェクトを継続的に行っている。いずれも統合失調症や早期精神病に関するテーマであり、その関連として、早期発見・治療ならびに予防に関する研究、認知機能と社会的機能の関連に関する神経心理学的研究、精神障害の前駆状態の疫学研究、初回エピソード精神病の追跡研究、これらと連動した神経画像研究などが活発に行われている。これらは学内においても社会医学講座、放射線医学講座などとの共同研究に発展している。

また、うつ病に対する抗うつ薬の最適使用戦略を確立するための他大学との多施設共同研究や統合失調症患者における非定型抗精神病薬の長期投与に関する多施設共同研究にも参加している。

## おわりに

脳とこころのさまざまな課題を扱う精神医学は、現代社会の中でますますその必要性、重要性が高まっている。うつ病（気分障害）に対する社会の認識はここ10数年で大幅に変化し、身近な疾患として一般社会の中でも受け入れられてきている。しかし精神病未治療期間（duration of untreated psychosis : DUP）と呼ばれる公衆衛生的指標によれば、精神病の発症から最初の受診までの期間はわが国においても非常に長い。成人期に精神疾患と診断される人の75%は25歳未満で発症していると言われており、いまだに治療困難な精神疾患も多い。

児童思春期の神経発達障害から老年期の認知症まで、幅広いニーズに応えられる精神科専門医の育成が求められている。臨床に疑問から生まれた課題を研究テーマとして精神医療の発展に寄与していく人材の育成と研究成果の発信を目指している。

（医局長：辻野尚久，教授：水野雅文）